

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月4日

上場会社名 参天製薬株式会社  
 コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 原田 哲  
 四半期報告書提出予定日 平成21年8月6日  
 配当支払開始予定日 —

上場取引所 東 大

TEL 06-6321-7007

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	29,302	15.1	10,308	—	10,477	—	6,548	—
21年3月期第1四半期	25,462	—	△103	—	131	—	136	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	77.00	76.91
21年3月期第1四半期	1.61	1.61

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	153,985	129,996	84.3	1,526.32
21年3月期	151,012	125,368	82.9	1,472.32

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 129,808百万円 21年3月期 125,180百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	40.00	—	40.00	80.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	57,000	9.2	14,000	148.4	14,000	132.8	8,500	128.2	99.99
通期	111,000	9.2	25,500	64.6	25,500	60.0	16,000	58.1	188.21

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 86,941,203株 21年3月期 86,916,203株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 1,894,760株 21年3月期 1,893,769株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 85,043,333株 21年3月期第1四半期 84,997,222株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々なリスク要因により大きく異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第1四半期の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、緑内障治療剤や角膜疾患治療剤などの伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、米国、欧州、アジアとも総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、目のかすみ、爽快、コンタクト、アレルギーならびに抗菌用目薬などが伸長し前年同期と比べ増加しました。

このような状況下、当第1四半期の業績は、次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	前年同期増減率
売上高	25,462	29,302	15.1%
営業利益(又は営業損失(△))	△103	10,308	-
経常利益	131	10,477	-
四半期純利益	136	6,548	-

② 当第1四半期の売上の状況

販売部門別の売上高は、次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医療用医薬品	20,892	2.5%	3,461	1.4%	24,353	2.3%
うち眼科薬	18,275	2.8%	3,437	1.0%	21,713	2.5%
うち抗リウマチ薬	2,539	△0.6%	19	-	2,558	0.2%
うちその他医薬品	77	27.2%	4	△52.9%	81	17.3%
一般用医薬品	1,289	0.4%	8	128.6%	1,298	0.7%
医療機器	209	128.4%	-	-	209	128.4%
その他	173	241.0%	3,266	-	3,440	-
合計	22,565	3.4%	6,736	84.6%	29,302	15.1%

[医療用医薬品]

当第1四半期の医療用医薬品の売上高は、前年同期と比べ2.3%増加し243億5千3百万円となりました。

(眼科薬)

<国内>

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施しました結果、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ2.8%増加し182億7千5百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は、8億5千6百万円となりました。

角膜疾患治療剤領域では、ドライアイ(眼球乾燥症候群)などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高める製品特性と、患者さんや医療現場におけるドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示し、前年同期と比べ

5.1%増加し48億1千7百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ5.4%減少し34億5千4百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力しましたが、スギ花粉の飛散が前年と比べ早期に終息したことや競合の影響もあり、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ12.7%減少し5億6千5百万円となりました。

#### <海外>

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ1.0%増加し34億3千7百万円となりました。

欧州では、医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療薬「タフロタン」が順調に市場浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により当社製品の市場浸透が進みました。

#### (抗リウマチ薬)

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠2mg」が、関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ0.2%増加し25億5千8百万円となりました。

#### [一般用医薬品]

一般用医薬品の売上高は、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬の中で「サンテメディカル10」や新製品である「サンテ40i」および「サンテFX Vプラス」を中心に販売促進に注力した結果、前年同期と比べ0.7%増加し12億9千8百万円となりました。

#### [医療機器]

医療機器の売上高は、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期と比べ128.4%増加し2億9百万円となりました。

### ③ 当第1四半期の利益の状況

売上原価は85億8千5百万円となり、売上原価率は29.3%となりました。販売費及び一般管理費については104億8百万円となり、このうち研究開発費は29億3千9百万円となりました。この結果、営業利益は103億8百万円となりました。経常利益は104億7千7百万円、四半期純利益は65億4千8百万円となりました。

### ④ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で販売中です。欧州では、平成20年6月のドイツに始まり、現在、5カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成21年6月に韓国で販売承認を取得し、中国では第Ⅲ相試験を実施中です。また、平成21年4月には、メルク社とのライセンス契約締結により、西欧（ドイツを除く）、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾することとしました。米国での開発についてもメルク社が継続することとなります。緑内障および高眼圧症を適応症とするROCK阻害剤のDE-104（一般名：未定）は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、より強い眼圧下降効果を目指して用量を増加した臨床試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を米国

にて追加実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、主にドライアイに伴う角結膜上皮障害治療剤のうち、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成20年5月に日本での製造販売承認を申請し、現在、承認審査期間中です。また、DE-101（一般名：リボグリタゾン）は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験結果を踏まえ、後期第Ⅱ相試験を準備中です。遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、米国において第Ⅰ相試験を終了し、前期第Ⅱ相試験を準備中です。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。また、平成20年5月にマキュサイト社から日本を含むアジアでの眼科疾患を対象とした開発および販売実施権を取得したDE-109（一般名：シロリムス）は、滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫の患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108（一般名：レボフロキサシン（1.5%））は、日本において第Ⅲ相試験を実施中です。

また、当社がArgenes社に国内開発権を許諾している、関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（臨床第Ⅰ相／第Ⅱ相試験）を欧州と日本で実施中です。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の資産は、前連結会計年度末に比べ29億7千3百万円増加しました。繰延税金資産の減少などがありましたが、現金及び預金の増加、投資有価証券の増加などが要因です。

負債は、前連結会計年度末に比べ16億5千4百万円減少しました。未払法人税等の支払い、賞与引当金の取崩しなどが要因です。

純資産は、前連結会計年度末に比べ46億2千8百万円増加しました。利益剰余金の増加が主な要因です。

これらの結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.4ポイント増加し、84.3%となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりです。

当第1四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、62億7千6百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は104億6千9百万円であり、減価償却費が8億5千万円、仕入債務の減少が9億3千9百万円、法人税等の支払が40億8千3百万円あったことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億6千4百万円の支出となりました。定期預金の払戻による収入が10億4千4百万円となりましたが、投資有価証券の取得による支出が10億1百万円あったことによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、32億1千4百万円の支出となりました。配当金の支払に32億3千万円を支出したことによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末に比べ28億8千2百万円増加し、488億3千8百万円となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は概ね予定通り推移しており、平成21年5月12日に公表した連結業績予想は修正していません。

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	39,901	37,117
受取手形及び売掛金	36,156	36,011
有価証券	10,497	11,396
商品及び製品	10,375	10,235
仕掛品	482	75
原材料及び貯蔵品	1,984	1,924
繰延税金資産	1,275	1,941
その他	2,280	2,352
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	102,953	101,053
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,812	41,475
減価償却累計額及び減損損失累計額	△26,019	△25,611
建物及び構築物（純額）	15,792	15,864
機械装置及び運搬具	11,279	11,065
減価償却累計額及び減損損失累計額	△8,877	△8,633
機械装置及び運搬具（純額）	2,401	2,432
土地	8,679	8,678
リース資産	64	53
減価償却累計額及び減損損失累計額	△15	△13
リース資産（純額）	49	39
建設仮勘定	49	99
その他	10,774	10,585
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,206	△9,034
その他（純額）	1,568	1,550
有形固定資産合計	28,541	28,664
無形固定資産		
ソフトウェア	1,326	1,355
その他	117	193
無形固定資産合計	1,444	1,549
投資その他の資産		
投資有価証券	13,617	11,818
繰延税金資産	5,945	6,409
その他	1,482	1,516
投資その他の資産合計	21,045	19,744
固定資産合計	51,031	49,959
資産合計	153,985	151,012

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,112	6,018
短期借入金	545	545
1年内返済予定の長期借入金	68	110
未払金	7,034	7,414
未払法人税等	3,156	4,163
賞与引当金	1,276	2,590
その他の引当金	81	69
その他	2,818	1,528
流動負債合計	20,092	22,439
固定負債		
繰延税金負債	22	20
退職給付引当金	2,521	2,393
役員退職慰労引当金	444	505
その他	908	284
固定負債合計	3,897	3,203
負債合計	23,989	25,643
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,488	6,457
資本剰余金	7,183	7,152
利益剰余金	124,281	121,133
自己株式	△4,937	△4,934
株主資本合計	133,015	129,808
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	330	△246
為替換算調整勘定	△3,537	△4,381
評価・換算差額等合計	△3,206	△4,628
新株予約権	188	188
純資産合計	129,996	125,368
負債純資産合計	153,985	151,012



(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
売上高	25,462	29,302
売上原価	9,142	8,585
売上総利益	16,320	20,716
販売費及び一般管理費	16,424	10,408
営業利益又は営業損失(△)	△103	10,308
営業外収益		
受取利息	35	11
受取配当金	209	150
生命保険配当金	—	128
その他	106	92
営業外収益合計	351	382
営業外費用		
支払利息	23	10
為替差損	74	83
持分法による投資損失	—	108
その他	18	12
営業外費用合計	115	214
経常利益	131	10,477
特別利益		
特別利益合計	—	—
特別損失		
固定資産処分損	8	7
施設利用権評価損	15	—
特別損失合計	23	7
税金等調整前四半期純利益	107	10,469
法人税、住民税及び事業税	1,366	3,107
法人税等調整額	△1,395	813
法人税等合計	△28	3,921
四半期純利益	136	6,548

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	107	10,469
減価償却費	1,109	850
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	157	126
受取利息及び受取配当金	△245	△161
支払利息	23	10
持分法による投資損益 (△は益)	—	108
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,644	18
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△15	△441
仕入債務の増減額 (△は減少)	△558	△939
その他	1,265	165
小計	198	10,205
利息及び配当金の受取額	243	159
利息の支払額	△7	△5
法人税等の支払額	△4,216	△4,083
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,782	6,276
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△2,138	—
定期預金の払戻による収入	—	1,044
固定資産の取得による支出	△625	△323
投資有価証券の取得による支出	△151	△1,001
その他	—	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,915	△264
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△42	△42
配当金の支払額	△3,201	△3,230
その他	41	57
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,202	△3,214
現金及び現金同等物に係る換算差額	327	85
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9,573	2,882
現金及び現金同等物の期首残高	51,669	45,956
現金及び現金同等物の四半期末残高	42,096	48,838

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益および全セグメントの資産の金額の合計額に占める「医薬品の製造・販売を中心とする医薬品事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益および全セグメントの資産の金額の合計額に占める「医薬品の製造・販売を中心とする医薬品事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	22,761	2,522	179	25,462	—	25,462
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	522	489	808	1,820	(1,820)	—
計	23,283	3,012	987	27,283	(1,820)	25,462
営業利益 (又は営業損失(△))	474	80	△64	490	(594)	△103

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	26,506	2,256	538	29,302	—	29,302
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	837	396	496	1,730	(1,730)	—
計	27,343	2,653	1,034	31,032	(1,730)	29,302
営業利益 (又は営業損失(△))	10,586	204	△10	10,781	(472)	10,308

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 本邦以外の区分に属する主な国または地域

(1) 欧州……フィンランド、ドイツ、スウェーデン

(2) その他の地域……アメリカ、中国、韓国、台湾

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

	欧州	北米	アジア	計
I 海外売上高（百万円）	2,243	255	1,149	3,649
II 連結売上高（百万円）	—	—	—	25,462
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	8.8	1.0	4.5	14.3

当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	欧州	北米	アジア	計
I 海外売上高（百万円）	1,965	3,337	1,433	6,736
II 連結売上高（百万円）	—	—	—	29,302
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	6.7	11.4	4.9	23.0

（注）1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 各区分に属する主な国または地域

(1) 欧州……………フィンランド、ドイツ、ロシア、スウェーデン、ノルウェー

(2) 北米……………アメリカ

(3) アジア……………韓国、中国、ベトナム、台湾

3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高です。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。